

# 「ミラノ国際博覧会 出展レポート」

OBAMA DAYS ~日本食文化 小浜から世界へ~

■問い合わせ 食のまちづくり課 ☎ 53・1000



①若狭塗箸協同組合やキッズ☆サポーター、市などが官民協働でミラノ万博へ参加、②日本館には長蛇の列、③松崎市長と日本館の小林館長が「OBAMA DAYS」の開幕を宣言、④多くの現地の子どもたちが参加したキッズ・キッチン、⑤好評を博した若狭塗箸研ぎ出し体験、⑥日本館内には若狭塗箸を使った花火の展示、⑦レセプションにイタリアの事業者やメディア関係者 70 人を招待、⑧松崎市長を中心に、各所で若狭塗箸や小浜への観光をPR

「地球に食料を、生命にエネルギーを」をテーマに、イタリア共和国ミラノで開催中のミラノ国際博覧会。なかでも日本館は、3カ月で100万人が来場するなど、人気のパビリオンとなっています。小浜も7月20日(月)から23日(木)の期間に出展。「キッズ・キッチン」と「若狭塗箸の研ぎ出し体験」は好評を博し、4日間の総来場者数は6267人を記録しました。また、松崎市長を中心にトップセールスを行うなど、小浜を世界に向けて強気に発信しました。

## キッズ・キッチン (万博会場内)

日本館のイベント広場で、おむすびとみそ汁を作る「キッズ・キッチン」を5回開催。3歳から11歳までの子どもたち約70人が参加しました。日本食文化とともに、「いただきます」「ごちそうさま」に込められた、感謝して食に向き合う日本人の精神を届けました。

## 若狭塗箸研ぎ出し体験 (万博会場内)

若狭塗箸協同組合による塗箸の研ぎ出し体験を12回開催。子どもから大人まで約280人が参加しました。体験型ワークショップは、各国のパビリオンでも珍しく、すぐに満員になるなど大盛況でした。

## 小浜ギャラリー (万博会場内)

出展期間中に、日本館内では、食品レプリカ(お雑煮、おせち料理など)や若狭塗箸をはじめとした伝統工芸品の展示を行いました。市民約千人が出演したメッセージ映像の放映は好評で、「小浜に行ってみよう」という来場者の声をたくさんいただきました。

## レセプション (公式の招待会)

7月20日(月)に、ミラノ市内の日本料理レストランで、イタリア国内の食関係事業者やメディア関係者など約70人を招待して、レセプションを開催しました。若狭塗箸協同組合の平野さんや、小浜商工会議所の上野会頭、市職員が、プレゼンテーションを行ったほか、小浜の食や地酒をPRしました。

## トップセールス

7月21日(火)〜24日(金)に、松崎市長が中心となって、ジェトロミラノ(日本貿易振興機構)や、日本食レストラン協会、若狭塗箸販売協力店、そのほか各都市の観光局、旅行会社などを訪問。若狭塗箸の利用促進や、小浜へのインバウンド(外国人旅行者の誘致)推進を積極的にアピールしました。

## インタビュー



キッズ☆サポーター会長  
ミラノ万博参加メンバー  
まつみや みなと  
松宮 美奈代さん (41歳・南川町)

子どもたちに思いやりや感謝の気持ちを伝えたい

小浜のキッズ・キッチンをそのままミラノで実践し、日本の食やお箸を通して、子どもたちに、心の温かさや感謝の気持ちを伝えたいという思いで参加しました。食材や道具、環境も日本と違うなかで、壁に当たる毎日でしたが、みんなで支え合って目標に向かって進み、成し遂げることの大切さを学びました。参加してくれた現地の子どもたちや、スタッフの皆さん、日本で支えてくれたサポーターや家族、すべてに感謝の気持ちでいっぱいです。キッズ・キッチンでは、大人が信頼し見守るなかで、子どもたちに食事づくりを体験してもらい、食べる相手を思いやる気持ちや、食材や携わる人への感謝の心を育むことを目標にしています。ミラノでは、多くの人が食育に関心をもち、共感してくれたことで、手心えを感じるとともに、自分たちも成長することができました。この感動を胸に、これからも信念を変えることなく、活動を続けていきたいと思っています。

箸イコール若狭塗箸のイメージを世界中の人に！

「ミラノ万博での「若狭塗箸研ぎ出し体験」は、多くの人が参加し、楽しんでいただきました。箸の持ち方のレクチャーにも興味を示す人が多く、箸への注目度の高さを感じました。日本館レストランでの若狭塗箸使用や、レセプション、ミラノ市内でのテスト販売などを通じて、売り手から使用者まで、さまざまな意見を得ることができました。海外において日本のものは品質が良いと言つイメージが浸透する一方で、使いやすさよりもデザインを重視するという人も多いようです。これからは、自分たちが良いと思つものだけを提供するのはなく、ニーズに合わせた箸を作つていくことも大切だと思いました。「箸」塗箸「若狭塗箸」というイメージを世界中の人に持つてもらつことが、最終的な理想とするところです。万博で得られた経験や、現地アンケートの結果を、組合員のなかで共有して、海外への販路を広げていきたいです。

## インタビュー



若狭塗箸協同組合  
ミラノ万博実行委員会実行委員長  
ひらの 泰之さん (42歳・竜田)